

高岡市の地域公共交通に関するアンケート調査結果

1. 実施概要

- 対象：16歳～85歳未満の市民 2,000人
- 抽出方法：住基データに基づく地区別の男女構成比および年齢構成比により抽出実施
- 方法：アンケート票の郵送、同封の返信用封筒にて回収。アンケート調査票にQRコードを添付し、Webでの回収も併用。
- 調査期間：令和6年10月1日（火）～31日（木）

2. アンケート回答状況及び回答属性

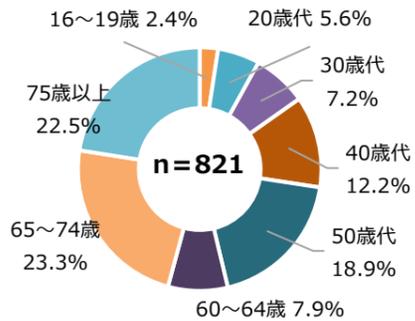
2-1. 回答者数、回答率

- 配布した2,000人のうち821人から回答があり、回収率は41.0%

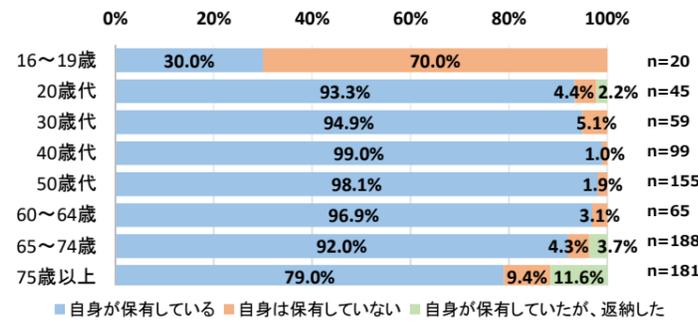
| | 配布数(人) | 回収数 | 回収率(%) |
|----------|--------|-----------------|--------|
| 今回(R6年度) | 2,000 | 821(うちWeb183) | 41.1 |
| 前回(R4年度) | 3,000 | 1,197(うちWeb250) | 39.9 |

2-2. 回答者の「年齢構成」「免許保有率」について

- 「年代別の人口構成比」に応じてアンケートを送付した。
- 回答者の年齢構成は、65歳未満の現役世代が54.2%、65歳以上が45.8%となっている。
- 免許証保有率は、20代～74歳では9割以上、75歳以上では8割程度となっている。75歳以上の世代で免許を保有していない人のうち、約半数以上が免許を返納した方である。



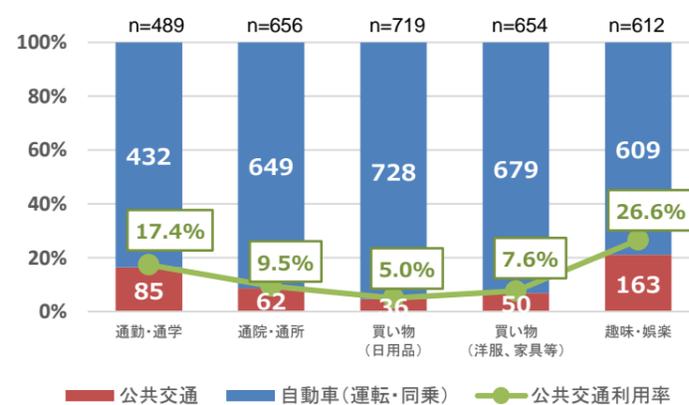
図：回答者の年齢構成



図：免許証の保有状況

3. 公共交通利用状況、公共交通利用率について（全体及び目的別利用率）

- 全体の公共交通利用率は、12.7%（前回調査（令和4年度）：8.5%）
- どの移動目的においても、車での移動が多く、7割以上を占めている。
- 公共交通利用率が最も高い移動目的は、「趣味・娯楽」の26.6%、次いで「通勤・通学」の17.4%であった。

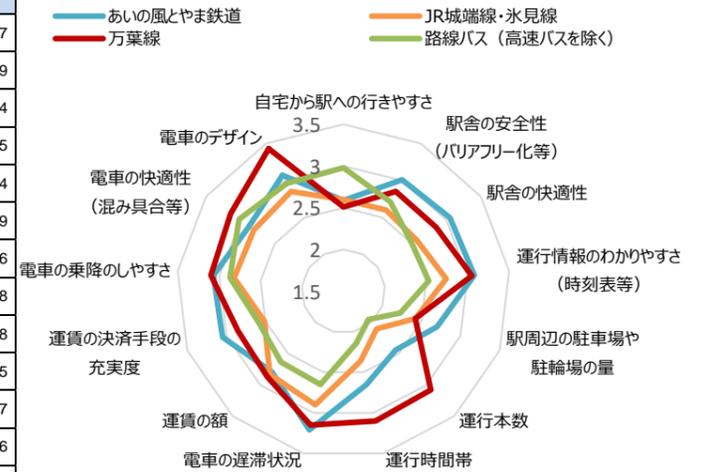


図：公共交通利用率（目的別）

4. 公共交通利便性満足度評価

- 「運行本数」、「駅周辺の駐車場や駐輪場の量」の評価は低い傾向にある。
- 「運行本数」、「運行時間帯」については、各公共交通における評価に差がある。

| | あいの風とやま鉄道 | JR城端線・氷見線 | 万葉線 | 路線バス(高速バスを除く) | 平均値 |
|-------------------|-----------|-----------|------|---------------|------|
| 自宅から駅への行きやすさ | 2.59 | 2.60 | 2.51 | 2.98 | 2.67 |
| 駅舎の安全性(バリアフリー化等) | 3.01 | 2.60 | 2.85 | 2.71 | 2.79 |
| 駅舎の快適性 | 3.05 | 2.57 | 2.85 | 2.50 | 2.74 |
| 運行情報のわかりやすさ(時刻表等) | 3.08 | 2.74 | 3.05 | 2.53 | 2.85 |
| 駅周辺の駐車場や駐輪場の量 | 2.70 | 2.42 | 2.42 | 2.23 | 2.44 |
| 運行本数 | 2.44 | 2.10 | 3.08 | 1.95 | 2.39 |
| 運行時間帯 | 2.65 | 2.36 | 3.10 | 2.14 | 2.56 |
| 電車の遅滞状況 | 3.21 | 2.90 | 3.15 | 2.65 | 2.98 |
| 運賃の額 | 2.79 | 2.83 | 2.87 | 2.63 | 2.78 |
| 運賃の決済手段の充実度 | 3.05 | 2.51 | 2.85 | 2.58 | 2.75 |
| 電車の乗降のしやすさ | 3.07 | 2.82 | 3.10 | 2.87 | 2.97 |
| 電車の快適性(混み具合等) | 2.87 | 2.80 | 3.14 | 3.02 | 2.96 |
| 電車のデザイン | 3.07 | 2.85 | 3.43 | 2.96 | 3.08 |
| 平均値 | 2.89 | 2.62 | 2.95 | 2.60 | 2.77 |

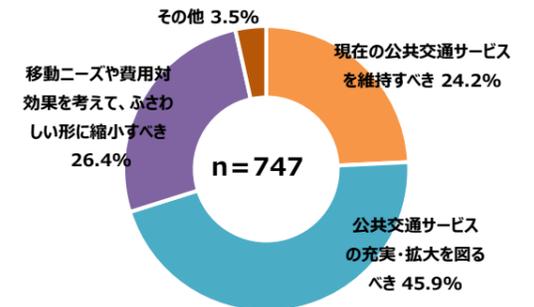


図：公共交通機関別満足度

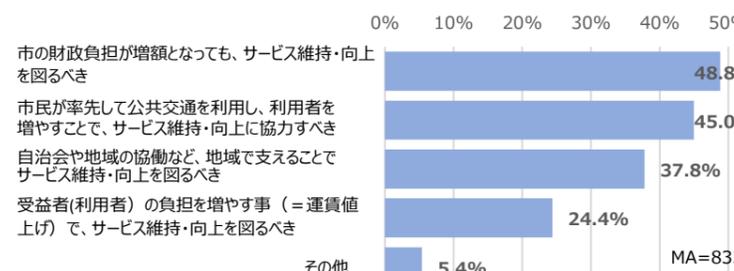
【満足度評価の方法】
各公共交通に対する13項目の設定について、「大変満足」を5点、「満足」を4点、「普通」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点として集計し平均値を比較。

5. 公共交通に関する考えについて

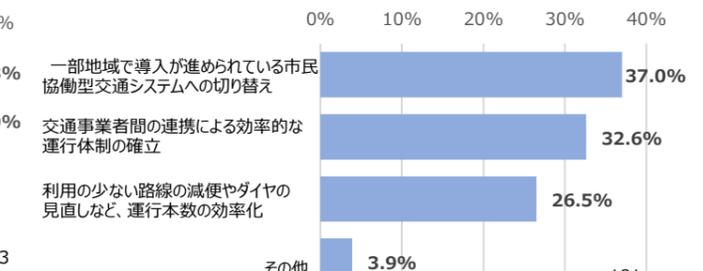
- 公共交通に対する考え方としては、「公共交通サービスの充実・拡大を図るべき」が最も多く、4割以上を占めている。
- 今後の公共交通における負担に対する考え方については、「市の財政負担が増額となっても、サービス維持・向上を図るべき」（48.8%）が前回調査（41.0%）と同様、最も多い。次に多かった考えは、前回調査では「自治会や地域の協働など、地域で支えることでサービス維持・向上を図るべき」（40.4%）だったが、今回は「市民が率先して公共交通を利用し、利用者を増やすことで、サービス維持・向上に協力すべき」（45.0%）となり、公共交通に対する当事者意識の高まりが見られる。
- 今後の公共交通におけるふさわしい形に対する考え方としては、「一部地域で導入が進められている市民協働型交通システムへの切り替え」と回答されている方が37.0%と多く、市民協働型交通システムを求める意見・意向が比較的高い。



図：公共交通に関する考え



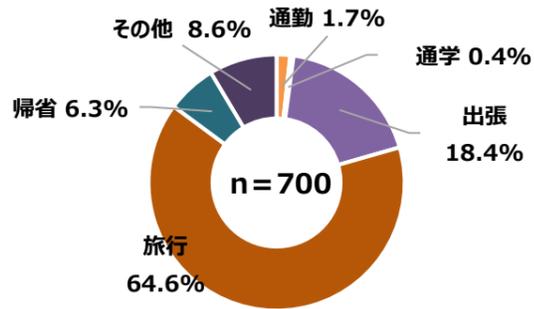
図：公共交通サービスの維持・充実・拡大による運行経費等の負担増についての考え



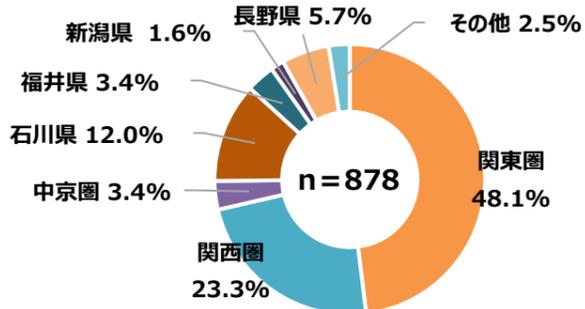
図：公共交通におけるふさわしい形としての考え

6. 北陸新幹線 新高岡駅の利用について

- 北陸新幹線の利用目的について、旅行で利用する人の割合が6割以上となっている。
- 主な行先は関東圏で約5割を占め、次いで関西方面への利用が多い。



図：北陸新幹線の利用目的

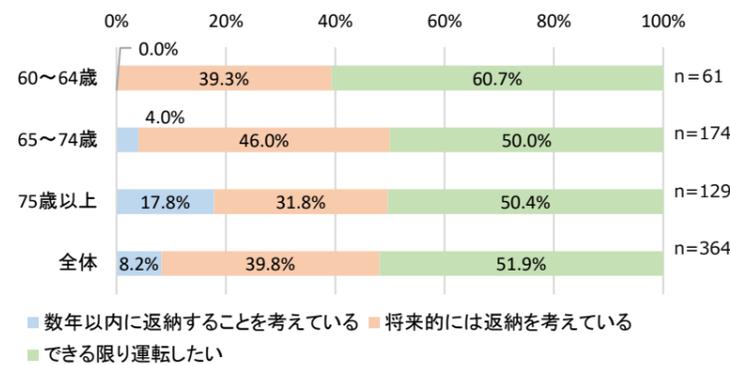


図：新高岡駅からの目的地

7. 免許返納について

7-1. 60歳以上の方の免許返納意向について

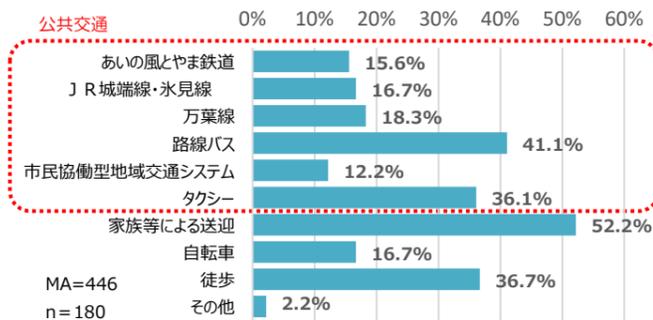
- 免許返納意向については、「返納することを考えている」と「将来的に返納を考えている」が全体の5割程度である。
- 年代が上がるにつれ、「返納することを考えている」と回答する割合が高くなる一方、75歳以上で「できる限り運転したい」と回答する方が5割を超えている。



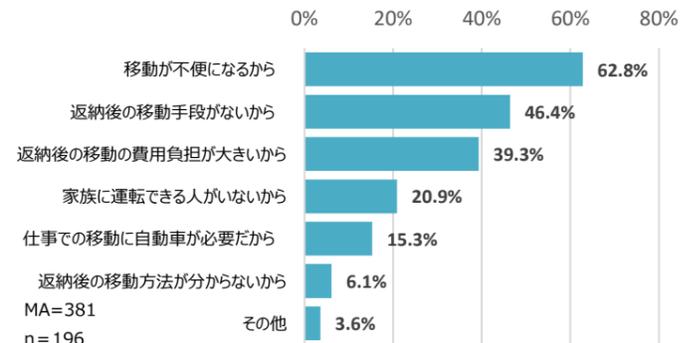
図：60歳以上の免許返納意向

7-2. 免許返納後の移動手段

- 「免許返納後の移動手段」を見ると、公共交通機関では「路線バス」が41.1%と最も多い。
- 「家族等による送迎」が52.2%を占め、免許返納後も車での移動が必要と考えている方が多い。
- 自動車を「できる限り運転したい理由」は、「移動が不便になるから」が62.8%と高く、自家用車の便利さと比較される傾向にある。



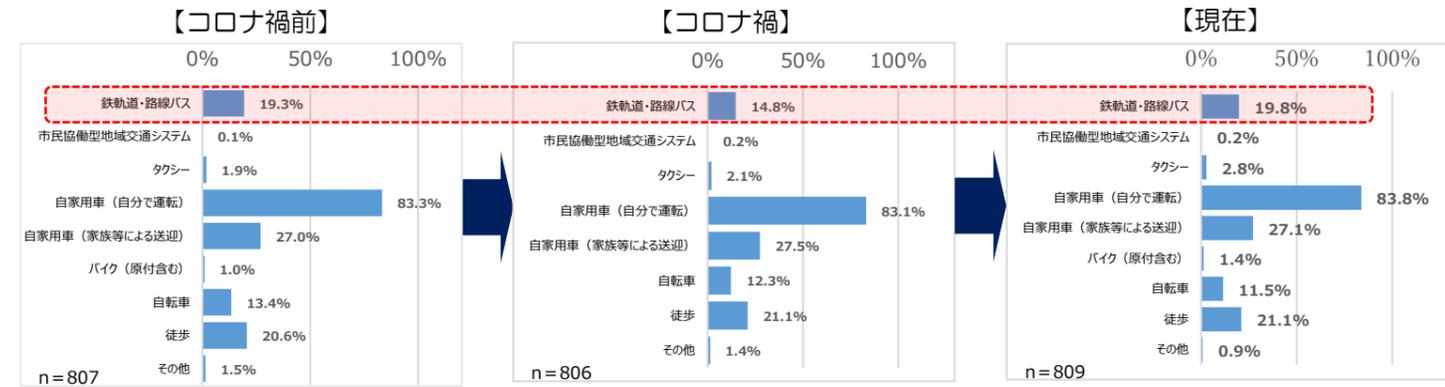
図：免許返納後の移動手段



図：できる限り運転したい理由

8. コロナ禍前後の外出状況の変化について

- 新型コロナウイルス感染症の拡大前から現在までの移動手段を見ると、「鉄軌道・路線バス」の利用がコロナ禍において一時減少したが、現在はコロナ禍前と同程度に回復している。



図：コロナ前後の交通手段

9. 公共交通に関する必要な対策について

- 公共交通に関する必要な対策として、「公共交通間の乗継ぎ、連絡時間の改善」「運行ダイヤの見直し、調整」が、どの移動目的においても3割以上となっている。
- 目的別では、通勤・通学の「朝タラッシュ時の増便」が58.1%と、全項目中最大値となっている。

| 回答者 | 朝タラッシュ時の増便 | 昼間時間帯の増便 | 始発の時刻を早くする | 終発の時刻を遅くする | 公共交通間の乗継ぎ、連絡時間の改善 | 運行ダイヤの見直し、調整 | 運賃の見直し | 交通系ICカード等の導入 | 環境に配慮した車両の導入 | 施設や車両のバリアフリー | または、拡張、駐輪場の整備 | 最寄り駅・電停・バス停の整備 | 公共交通沿線の機能拡張 | その他 |
|----------------|------------|----------|------------|------------|-------------------|--------------|--------|--------------|--------------|--------------|---------------|----------------|-------------|-----|
| 通勤・通学 | 58.1% | 14.0% | 7.0% | 10.5% | 36.0% | 40.7% | 17.4% | 11.6% | 3.5% | 1.2% | 17.4% | 11.6% | 2.3% | |
| 買い物(日用品・食料品等) | 3.5% | 30.4% | 0.0% | 1.7% | 30.4% | 31.3% | 24.3% | 8.7% | 7.0% | 3.5% | 33.0% | 15.7% | 5.2% | |
| 買い物(家具、家電、洋服等) | 1.8% | 42.7% | 1.8% | 3.6% | 40.0% | 38.2% | 30.9% | 15.5% | 9.1% | 3.6% | 43.6% | 25.5% | 11.8% | |
| 通院・通所 | 6.8% | 33.3% | 3.8% | 3.8% | 46.2% | 40.9% | 27.3% | 10.6% | 5.3% | 12.9% | 38.6% | 23.5% | 11.4% | |
| 趣味・娯楽 | 3.3% | 27.3% | 8.3% | 13.2% | 52.9% | 40.5% | 31.4% | 19.8% | 4.1% | 7.4% | 36.4% | 24.8% | 11.6% | |

図：目的別公共交通に対する必要な対策

※複数回答あり

10. アンケート結果による公共交通の現状と課題について

- ・ 外出時における公共交通利用率は約1割程度であり、日常生活における車での移動が依然として多いものの、コロナ禍の令和4年度に比べて、公共交通の利用は回復している。〈項目3、8〉
- ・ 今後の公共交通サービスにおける運行経費等の負担増に対する考え方については、「市の財政負担が増額となっても、サービス維持・向上を図るべき」が最も多い一方、次いで「市民が率先して公共交通を利用し、利用者を増やすことで、サービス維持・向上に協力すべき」との意見も多く、公共交通に対する当事者意識の高まりが見られる。〈項目5〉
- ・ 公共交通に対する満足度は、「駅等周辺の駐車場や駐輪場の量」、「運行本数」の項目について評価が低い傾向にあり、「駅等の駐車場や駐輪場の整備・拡張」や、「乗継ぎ改善」、「運行ダイヤの見直し」等の対策があれば、公共交通の利用に転換可能と考える方が多い。〈項目4、9〉
- ・ 免許証保有率は、75歳以上の方についても8割程度と高く、今後もできる限り運転を希望する方が半数おられる。返納後の移動手段は、「家族等による送迎」に次いで、路線バスやタクシーといった公共交通を考えている方が多い。〈項目2-2、7〉